

令和2年度学校評価実施計画

学校名	豊学校
-----	-----

前年度評価結果の概要	授業改善が進みわかりやすい授業を行うことができるようになってきているが、「大分豊スタンダード」はあくまでも手段であって手段が目的化していると学校評議員や第三者評価委員から指摘を受けた。次年度は幼児児童生徒が望んでいることを成果として、「異学年交流」や「少人数」などの本校の「強み」を出しながら重点目標達成を目指していきたい。また、専門性の向上である程度の成果が見えつつあるので、来年度は危機管理マニュアルや緊急対応の見直しを図り、安心・安全な学校を目指していきたい。
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
聴覚に障がいのある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて、学校組織として一貫した教育を行うことにより、確かな学力と豊かなコミュニケーション力の向上を図り、様々な人々と係わりながら社会参加していく態度・習慣を養う。	(1) 個別の指導計画を活用し、一人一人の教育的ニーズについて共通理解をした実践を行う。 (2) 各学部間や寄宿舎との連携を強化し、幼稚部から高等部までの一貫教育を推進する。 (3) 本校に勤務するすべての教職員が、必要な知識・技能及び手話力を身に付け、教育(相談)活動を充実させる。	○障がいに応じた合理的配慮を行うとともに、分かる授業の徹底を図る。 ○危機管理マニュアルや緊急対応の見直しを行い安心・安全な学校づくりを目指す。

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
○障がいに応じた合理的配慮を行うとともに、分かる授業の徹底を図る。	・少人数であることを活かして幼児に丁寧な指導を行うと行うとともに、保護者との情報共有で共通理解を図り、保護者アンケート4段階のすべての項目で3や4などの評価を得て、平均して90%の達成率を得る。	・年齢や構成人数、幼稚部での経験などを考慮した集団活動の工夫を行うとともに、幼児の実態に合わせて個に応じた指導も適切に行う。 ・『個別の時間』『週案説明』などで情報を共有することにより、共通理解を図る。	・幼児の実態に合わせて、集団構成の工夫をした合同授業を学期に2回以上行う。 ・『お話しシート』を年間7回以上配布して、現在の実態を共有するとともに、今後の個々の活動に活かせるよう支援を行う。 ・『週案』を年間35号以上配布して情報を共有し連携を深める。 ・一人3実践の授業公開2回、授業見学2回以上行い、指摘事項を部内で共有し、授業改善をする。	PL: 幼稚部主事 SL: 主幹教諭 SL: 教務主任
	・小学部保護者への授業に関するアンケートを年間2回実施し、授業が「よく分かっている」「おおむね分かっている」「分かっていることが多い」「ほとんど分かっている」の4段階評価で、「よく分かっている」「おおむね分かっている」の評価を全員から得る。	・大分豊スタンダードを基に授業を行い、学習活動の目的に応じて聴覚的な環境の調整を行い、個々の聞こえの状態に応じた最大限の聴覚活用に向けて、適宜授業改善を行う。 ・授業後の習得や定着の状態についての確に把握し、連絡帳や懇談を通して保護者と共通理解をする。	・単一障がい学級では、単元ごとに評価テストを実施し、必要に応じて関係機関と連携して授業の改善を図り、学期末の評価を踏まえた上で個別の指導計画を見直し、保護者と共通理解する。 ・重複障がい学級では、学期末の評価時に、関係機関との連携により、個別の指導計画を見直し、保護者と共通理解する。 ・1人3実践の授業公開2回、授業見学2回以上に取り組み、授業に関する指摘事項や他学部授業で参考になる内容を基に、速やかに授業改善と個別の指導計画の見直しを行う。 ・人工内耳装用児童は、定期受診の際に聞こえの状態に関して学校と関係医療機関との間で情報共有を行う。 ・聴力測定を学期に1回以上実施し、特に人工内耳に関する定期の受診の前後に聴力測定を行う。	PL: 小学部主事 SL: 主幹教諭 SL: 教務主任
	・授業に関するアンケートで、中学部の生徒全員が「授業内容がよくわかる」または「授業内容がほとんどわかる」と回答する。 ※アンケートで回答することが難しい生徒については、学期ごとに課題が達成できているかで判断する。	・大分豊スタンダードを基に授業を行い、生徒が理解しているかどうかを確認する。 ・生徒の理解を図るため、教材や板書の工夫をする。 ・わかる授業の実施に向け、授業力向上の研修を行う。	・定期的(1ヶ月に1回以上)に大分豊スタンダード11項目の実施状況を自己評価する。特に、生徒の理解度の確認については、授業の中で内容を生徒に説明させたり、小テストを行ったりする。 ・ICT機器を効果的に活用し、生徒の実態に合わせた視覚的な教材を毎回準備する。 ・1人3実践の授業公開2回、授業見学2回以上を行う。	PL: 中学部主事 SL: 主幹教諭 SL: 教務主任
	学部アンケートで、高等部の生徒全員が学習活動で自分の考えや意見を「きちんと発表できる」または「大体発表できる」と回答する。	・生徒一人一人の特性に応じた学習環境を提供する。 ・生徒の発表の機会を設ける。 ・分かる授業の実施に向け、授業力向上について研修を深める。	・全ての生徒一人一人のコミュニケーションモードや視覚情報に留意して授業を行う。 ・自分の意見や考え方を他者に説明する場面を1授業に1回は作る。また、学期に1回は高等部生徒の前で発表させるミニ意見発表会を行う。 ・1人3実践の授業公開2回、授業見学2回以上行う。	PL: 高等部主事 SL: 主幹教諭 SL: 教務主任
○危機管理マニュアルや緊急対応の見直しを行い安心・安全な学校づくりを目指す。	避難訓練や事後学習会についてのアンケートで内容を「よく分かった」・「おおむね分かった」と回答した児童、生徒の割合80%以上。	危機管理マニュアルの完成	・防災コーディネーター、保健部、生活指導部合同会議。(訓練計画・マニュアルの見直し含/年3回) ・防災避難訓練の実施。(年3回) ・避難訓練後の事後指導。(各学級:登下校時の避難について/年3回) ・防災士、自治会、大分市防災危機管理課との連携、協議。(年2回)	PL: 生徒指導主任 SL: 保健主任 SL: 防災コーディネーター
		緊急対応の確立	・普通救命講習の実施(年1回) ・緊急対応訓練を受けたマニュアルの確認。(年3回) ・校内の安全点検。(月1回) ・感染症予防の研修を実施し、感染症発生時には連絡を取り合い感染拡大防止に努める。(年1回以上) ・ヒヤリハットがあったときには、全職員に連絡・周知する。(随時)	